



同行二人

四国遍路の精神を表す考え方で、弘法大師と共に歩いているという意味。1人で、または仲間と歩いても、それぞれが常にお大師さまに見守られながらの2人旅であるという、遍路の心の支えになる言葉。遍路の装束、金剛杖、持ち物などにも書かれています。

南無大師遍照金剛

弘法大師の御宝号。「お大師さまにすべて委ねます」の意味。参拜の際に唱えます。「南無」は帰依するという意味で、「遍照金剛」は弘法大師が唐の長安で密教の高僧、惠果阿闍梨から与えられた灌頂名。

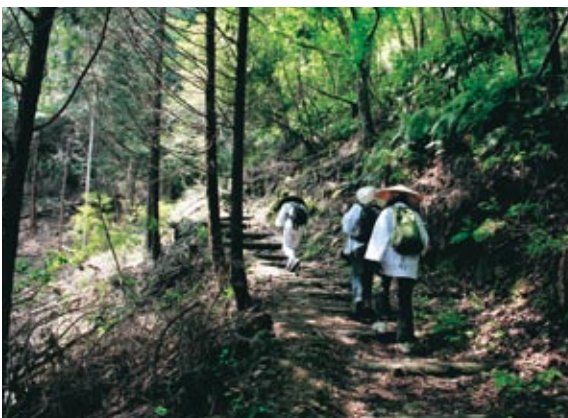
お接待



遍路道を歩くお遍路さんに対して、地元の人が「お接待です」と言って飲食物やお金、時には一夜の宿を提供してくれる風習。お接待をする側は弘法大師と一緒に歩む遍路者に対しての布施行として功德を積むことができる、自分に代わって遠方の札所へお参りしてほしい、という無償の行為なので、申し出られた場合は遠慮せずに断らないのがマナーとされています。

遍路ころがし

遍路道の中でも急な坂道の続く、歩き遍路を悩ます難所のこと。徳島では「一に焼山、二にお鶴、三に太龍」といわれ、第11番・藤井寺から第12番・焼山寺への山道、第20番・鶴林寺から第21番・太龍寺への急坂のほか、第60番・横峰寺、第66番・雲辺寺、第80番・國分寺から第81番・白峯寺の登りなどが知られています。



札所

遍路たちが巡拝するお寺で、参拝して納め札を納める所という意味。四国の札所には御本尊を祀る本堂と、弘法大師を祀る大師堂があり、本堂、大師堂の順に参拝します。

納経

参拝したときに写経を札所に納め、寺側からの受取証として、遍路が持参した納経帳に墨書で「奉納」「本尊名」「寺の名前」を書いて宝印（朱印）を押していただくこと。現代では、写経の代わりに読経をして、礼拝の証として納経を受けます。



別格二十霊場

88の札所以外に、遍路道沿いや外れた場所に点在する弘法大師ゆかりの20の寺が「別格二十霊場」。これ以外のゆかりのある寺や各札所の奥の院などを「番外霊場」といいます。



打つ

札所を参拝すること。たとえば善通寺を参拝することを、「75番札所を打つ」というように使います。現代の納め札は紙製ですが、昔は薄い木片や金属でできている札をお参りした証に山門やお堂に打ちつけていたというのが語源です。

順打ち、逆打ち

打ち始めの札所から番号順の時計回りに巡拝することを「順打ち」、逆に巡ることを「逆打ち」といいます。遍路道の道しるべは順打ちのために建てられているため、逆打ちは道に迷いやすいとされ、その分順打ちの3倍の功德があるとされています。

結願

八十八ヶ所の札所をすべて巡拝し終え、最後の札所を打つこと。四国遍路に出ようと願い、最初の寺を打つことを「発願」といいます。どこから始めても自由ですが、第1番・霊山寺から打ち始めれば、第88番・大窪寺が結願の寺。ここで共に歩いてきた金剛杖や菅笠を奉納する人もいます。

